

二〇二五年四月一八日

白蝶の紛れ舞ひたる川の綺羅  
若布粗朶揺らして過ぎる定期船  
山吹の水車飛沫に揺れやまず  
願掛けの草履犇めく花の寺  
牡丹散る客の来る日を待たずして  
入院のベッドの窓辺花朧

えいじ  
なつき  
康子  
よし女  
うつき  
和繁

二〇二五年四月一七日

花万朶なるIPS研究所  
虎杖を採りもし古墳巡りけり

せいじ  
うつき

二〇二五年四月一六日

小高きはどれも古墳や夕朧  
喬木の根方を埋む著莪朶  
藤浪のウエーブ見せて風通ふ

うつき  
澄子  
むべ

二〇二五年四月一五日

息災といふに安堵や春便り  
駐輪場DMINO倒しや春疾風  
寿命延ぶ枝垂れ桜に籠もりゐて  
落花屑踏むには惜しき石畳  
葱坊主前に習へは苦手なる  
大牡丹煽る強風憎みけり

わかば  
むべ  
うつき  
よし女  
たか子  
よし女

二〇二五年四月一四日

新緑を讀へ鎮もる山の池  
花屑の帯となりたる疎水かな  
臥せし日の長きを思ひ草を引く  
野の子らに鈴ふるやうに揚雲雀

やよい  
あひる  
康子  
あひる

二〇二五年四月一三日

さ走れる縮緬波や花の冷え  
花下を来る亡き夫に似し甥坊主  
一村の沈むダム湖や花筏

澄子  
よし女  
山椒

二〇二五年四月一二日

卒業の子らのスクラム晴れ晴れと  
山笑ふ抱腹絶倒まさに今  
太鼓打ち蒲団だんじり春田行く  
地虫出て早やわが庭を狼藉す

あひる  
明日香  
千鶴  
うつき

毎日句会みのる選・二〇二五年四月二〇日